

回復期クリティカルパス (イメージ)

本人の目安	1-3週目 (通算 13~15週) 自分の病状について考える 外出について考える 生活のリズムをつかむ	4-9週目 (通算 16~21週) 薬について考える 社会生活 (金銭管理含む) の練習 をする 病棟の外に出てみる	10-18週目 (通算 22~30週) 自分の気持ちを考える 自分のことを人の前で語る 相手の気持ちを考える	19-24週目 (通算 31~36週) 人との付き合い方を考える 自分の気持ちをコントロールで きる 相手の気持ちが理解できる	25-36週目 (通算 37~48週) 自分のできることで自分自身の良さを 見つける 病院の外に出てみる 自分の将来について考える
評価・治療検討	基本評価の見直し、回復期治療方針の決定、改善度評価、院内外出の可能性、治療プログラムの選定及び実施、薬物療法 (維持療法) の評価、本人家族への病状及び治療計画の説明、 診察は週2回	症状改善の評価及び治療内容の見直し、外出に伴う変化に対応した治療プログラム (個別精神療法、集団精神療法・心理療法) の実施 服薬指導	改善されない症状の検討・問題点の整理、病棟等評価 治療プログラム (個別精神療法、集団精神療法・心理療法) の実施 服薬コンプライアンスの確認	服薬の自己管理に伴う症状の変化に対応 服薬指導、個別精神療法の強化	回復期治療の評価及び改善されない症状の検討・問題点の整理をして社会復帰期導入への検討 外出の可能性の評価 家族面接治療の現状と今後の方針の説明 入院継続の検討所への申し立て
検査	血液検査 1/月、ECGL/3月 薬物血中濃度 1/月	→	→	→	→
心理検査	さらなる情報収集 (投影法・質問紙法) 病識尺度を使用した評価	不安・抑うつ・衝動性及び自尊心、自己効力感のアセスメント	知能検査 病識尺度を使用した評価	不安・抑うつ・衝動性及び自尊心、自己効力感のアセスメント	病識尺度を使用した評価
多職種チーム	プログラム参加状況の評価及び外出可能性の検討 回復期ミーティングの実施	集団・個別治療プログラムの実施及び評価、外出に同伴する	外出の実施による状態の変化に対応、生活の自立度及び病識や治療動機付け等の確認	服薬の自己管理に伴う変化の観察及び介入、治療プログラムの実施	集団・個別治療プログラムの実施及び評価、社会復帰期への移行可能性の検討
看護活動	身体管理・精神症状観察と関連要因の検討、言語的コミュニケーションによる表現能力の回復、対象者の日常生活能力評価	身体管理・精神症状観察と関連要因の検討、対人関係の改善に向けた援助、外出に向けた援助 日常生活能力回復に向けた援助 自己対処能力の評価	身体管理・精神症状観察と関連要因の検討、日常生活能力回復に向けた援助、自己対処能力回復に向けた援助、外出に向けた援助	身体管理・精神症状観察と関連要因の検討、自己対処能力回復に向けた援助、外出に向けた援助	身体管理・精神症状観察と関連要因の検討 看護面接・看護ケア計画の作成 社会復帰期移行可能性について評価する
作業療法	看護面接・看護ケア計画の作成 成功体験を積み重ねて達成感を得る活動 体力を回復する活動	看護面接・看護ケア計画の作成 具体的な体験を通してコミュニケーションができる活動 社会生活技能を練習する活動	看護面接・看護ケア計画の作成 集中力を高める活動 持続力を高める活動	看護面接・看護ケア計画の作成 職業準備訓練 社会生活技能を身につける活動 (買い物・調理・掃除など)	看護面接・看護ケア計画の作成 社会的な計画や複雑な工程の作業活動 他者との共同作業
心理教育	医学講座 (疾患教育)	→	→	→	→
精神療法	患者集団で体験を共有し、共感性を高め洞察を深め、コミュニケーション能力を高める 集団で体験を共有する	共感性を高める	復健行動能力を高める	自己洞察を高める	自己洞察を高める
認知行動療法	疾病教育を通して病識を深める。疾病の自己管理能力を獲得する教育プログラムの実施、感情抑制の方法の習得 喜怒哀楽の感情コントロールができる	感情の表現をコントロールでき る	怒りや攻撃性の表現をコントロールできる	自らの考え方の特徴を理解し自己理解を促進する	自らの考え方の特徴を理解し自己理解を促進する
レクリエーション	毎週実施 (週1回定例)	→	→	→	→
全体ミーティング	毎週実施 (週1回定例)	→	→	→	→
ソーシャルワーク業務	家族・関係者の調整、 外出プログラムの作成と社会復帰調整官との協議	家族・関係者の調整、 外出に伴う SST を企画実施 外出に伴う生活技能について評価する	家族・関係者の調整、 外出に伴う SST を企画実施 外出に伴う生活技能について評価する	家族・関係者の調整 外出に伴う生活の効果を評価し、課題を提示する	家族・関係者の調整 居住予定地の社会復帰調整官の情報から、社会資源について対象者に伝え、自己決定を援助する